

赤城山廻遊案内

澤正作



毛野研究會發行

赤城山廻遊案内目次

口 繪 寫真十二面

山頂案内圖 一葉

□赤城山概説……………一

□山中の名勝……………三

○赤城湖○大洞○小島島○紅葉が淵○覺滿淵

○小沼○朝香山○見晴山ツ、ジの勝地

□赤城山と交通……………四

□上毛電鐵車窓から
赤城山の展望……………五

○新大間々驛から中央前橋驛へ○新大間々驛
の展望○中央前橋驛から新大間々驛へ

赤城山登山案内

□前橋口……………九

○前橋市○赤城牧場○三の輪○一杯清水○樺
澤鑛泉○地獄谷

□大間々口……………一三

○赤城山バス○新大間々驛○大間々町○高津
戸峽○神梅新道○貴船神社○神梅鑛泉○深澤
城址○梨木鑛泉○水沼からの赤城登山道○一
ノ鳥居○鍛冶坂

□赤城山頂廻遊案内……………一九

赤城山廻遊案内

四拙 岩澤 正作 著

赤城山概説

赤城山は榛名山・妙義山と共に上毛三名山の一で、關東平野の西北縁・群馬縣勢多郡と利根郡との境に峙立し、其裾野の三面は渡良瀬川・根利川・片品川・利根川等の諸川を以て劃られ唯南面のみ開けて上州平野に臨んでゐる。此山は缺尖圓錐形をなし、山頂は數峯に分れ、茫漠たる平野に向つて長い裾野を曳き、放眸遮るものなく、威風悠然として關八州の山野を壓してゐる。これ此山の夙に人口に膾炙された所以であらう。

赤城山は實に二重式複火山で、山頂に環立する諸峯中、黒檜山・薬師嶽・出張山・鉞柄山・姥子山・前淺間山・牛石嶺・茶之木畑山・駒ヶ嶽等を列ねた階圓環が、所謂舊火山壁で現在の外輪山である。此等外輪山に囲まれた大壑が即ち最初の噴火口で、其稍西南に偏して中央火口丘・神庫山(藏嶽)が峙立し、火口丘・神庫山と外輪山との間には、火口原・覺満平・番小屋平・四本橋平沼尻平・新坂平・小沼平等の原野が斷續してゐる。赤城湖(俗稱大沼)は火口原の低所に水を湛へた火口原湖である。

以上外輪山・中央火口丘・火口原・火口原湖等、二重式複火山の要素を備へた上に、尙山腹の弱所を破つて噴出した寄生火山(又側火山と云ふ)がある。其噴火口は今の小沼で、其噴出物は火口の

周圍に堆積して火口壁をなす。長七郎山・虚空藏山・北山・朝香山の諸峯となつて、小沼の周圍に特立してゐる。されば小沼は寄生火山の火口内に天水を湛へた所謂火口湖である。山中には尙地獄谷の爆發孔址があり、又火山活動の餘勢と見るべき硫氣孔・蒸氣孔・溫泉等の殘址がある。地獄谷は爆發後少時硫氣を噴出した硫氣孔址で、小沼川の沿岸には熱蒸氣を噴出した蒸氣孔址があり、湯之澤其他に溫泉の名残が存在する。

赤城山中には火口内の水を、火口外に流出する、所謂火口瀬が三條ある。即ち赤城湖を源とする沼尾川、小沼に發源する粕川、地獄谷及び神庫山西南部の溪流を集めて流出する白川等で、尙幾多の副射谷もある。次に赤城火山を地形的に表記して見やう。

外輪山——舊火口壁

黒檜山・藥師嶽・出張山・鉾柄山・姥子山・前淺間山・牛石嶺・茶之木畑山・駒ヶ嶽等

中央火口丘

神庫山（俗に地藏嶽と云ふ）

火口原——舊噴火口底

覺滿平・番小屋平・四本楢平・沼尻平・新坂平・小沼平・茶之木畑平等。

寄生火山 噴火口・小沼

火口壁・長七郎山・虚空藏山・北山・朝香山等。

爆發孔址、地獄谷、

硫氣孔址、地獄谷、

蒸氣孔址、小沼川の兩岸

温泉、湯之澤温泉

火口瀨、沼尾川、白川、粕川等。

山中の名勝

○赤城湖 里俗大沼と呼び、萬葉集に葛葉瀉と詠まれたもので、神庫山の北にある火口原湖で周廻一里餘、形勾玉形をなし、湖畔には雜木茂生し頗る幽邃靜寂の境である。

○大洞 赤城湖周圍の平地を大洞と呼び、其東端に大洞赤城神社が鎮座し、附近に社内屋・赤城旅館・講堂・圖書館等があり、西岸を沼尻と呼び青木旅館・鱒の孵化試驗場等がある。

○小鳥嶋 赤城湖の東岸近くあり、嶋内は樅梅等の老樹の間に雜木茂生してゐる。

○紅葉が淵 山中何處でも紅葉は好いが、沼尻の北岸に特に楓類の老木多く、夫れが湖水に映じて美しい處から稱せられてゐる。

○覺滿淵 覺滿平の中央部に湛へた潑水で、其周圍は蘚苔類の茂生してゐる沮洳地で、モウセンゴケ其他の濕地植物に富み、初冬スケート場として稱せられてゐる。

○小沼 神庫山の東方約二丁の處にある火口湖で、周圍約九丁深さ十七米と云ひ、周圍に長七郎山・虚空藏山・朝香山等が迫り、頗る悽愴の感がある。

○朝香山 小沼の西岸に峙立し、舊中山と呼んだが、昭和三年九月二日 朝香宮鳩彦王殿下が騎馬御登攀あらせられた記念として改名した、山頂ツ、ジ・紅葉等の眺めがよい。

○見晴山 神庫山の西・新坂平から大洞に下る途中に在り、ツ、ジの眺めがよい。

○ツ、ジの勝地としては新坂平・沼尻平・番小屋平・覺滿平・小沼平等がある。尙オトギノ森・

朝日瀧・銚子伽藍等の勝地あるも、詳細は拙著赤城山大觀(送料共金五拾四錢)を参照されたい。

赤城山に登りて黒檜山に登らざれば、共に赤城山を語るに足らずと言はれてゐるが、黒檜山は實に全山の代表的秀嶺である。詳細は拙著赤城山大觀に譲り、登路の主要を記すと、講堂の前を北に辿り覺滿川を渡り、駒ヶ嶽の南裾から駒ヶ嶽の頂を経て、大ダルミに下り黒檜山の南腹を直登りに登り、登りきると左折して進むと、三角點がある。尙北に進むと舊黒檜神社奉祀の址に逢着する。其間西に下る道がある。これを下ると狹岩の上を経て赤城湖畔に出られる。

赤城山と交通

赤城山は勢多郡の北を壓し、利根郡の南を蔽ひ、兩郡の境上に峙立し、東に渡良瀬峡谷、北に片品峡谷、西北に利根峡谷を控へ、南及び西は平野に臨めるを以て、山頂大洞の地は古來交通の衝に當り、四方八方から交通の捷路チカミチとされてゐた。されば大洞は文字通り四通八達の巷で實に十二條の通路がある。以下其東部より列記すると、(1)鳥居峠(水沼・大間々口)(2)茶之木畑峠(梨木・神梅・大間々口)(3)躑躅ヶ嶺通り(瀧澤口)、(4)牛石峠(湯之澤瀧澤口)、(5)輕井澤峠(三夜澤・大胡口)、(6)テナヤ坂(箕輪・前橋口)、(7)新坂峠(箕輪・前橋口)(8)姥子峠(柏木・溝呂木・敷島・澁川口)、(9)鍛柄峠(深山・敷島口)、(10)出張越(深山敷島口)、(11)野坂峠(沼田口)、(12)五輪峠(利根郡東入口)等である。

以上は何れも山麓地方に於て數條に分れ、接續町村は勿論接續諸大字の何處からでも登ら

れ其登路の主條は各景觀上の特徴を備へ、直に登路の甲乙はつけ難いが、本誌の目的は日歸り又は一泊の短時間に於ける廻遊にあるから、大間々口から水沼・二ノ鳥居・利平茶屋をへて鳥居峠を登り、山頂を廻遊して大洞から新坂平に出で、新坂を下り一杯清水から箕輪・小暮を経て前橋に出で、上毛電鐵で東に歸るか、或は此コースを反對に、前橋口から小暮・箕輪を経て、一杯清水に至り、新坂を登り赤城湖畔に出で山頂を廻遊して、鳥居峠又は茶木畑峠から大間々に下り、新大間々驛から上毛電鐵で西に歸るか、東武電車で歸京せらるゝ方々の東道となすべく執筆した、此コースは略圖に示すやうに新大間々驛から利平茶屋まで自動車があり、これより頂上赤城神社迄二十五町、又前橋口は一杯清水迄自動車があつて、一杯清水から赤城神社迄約一里、但し東武線廻遊切符の方は箕輪を終點としてゐる。時間等の詳細は廣告欄参照あれ。

上毛電氣鐵道車窓から赤城山の展望

○新大間々驛から中央前橋驛へ、本線の終點西桐生驛又は東武線電車で新大間々驛に近づく
と、赤城山はドツシリと長い裾野を曳いて雄大な姿態を横へてゐる。

○新大間々驛の展望 新大間々驛で左窓から展望すると、右方目の前に鹿田山の丘嶺が連り正南には天正の頃太田金山の碧の在つた、廣澤の茶臼山が峙立して、其脈蜿蜒南下して太田の金山に連つてゐる。又右窓から北方を望むと、渡良瀬峽谷の右側(左岸)には、足尾山塊の餘脈が連り、其最北部に聳えてゐる駝背に似た双峯は、大袈裟・小袈裟の袈裟丸山で、足尾山

塊は蜿蜒南下して平野に没してゐる。驛の目前右側に突出して渡良瀬川に臨み、頂上に常盤木トキキの叢生するは、天正年中里見勝政・勝安兄弟の據つた高津戸城址の在る要害山で、其下が東毛の名勝高津戸峽の中樞部である。要害山の西北對岸に突出するものは、黒川峽中深澤城の信號所にあつた手振山で、其背後に峙立するものが、赤城山である。赤城山の頂は數峯に分れてゐる。

赤城山の東部最北に聳えてゐる尖峯は、山中の最高峯黒檜山で、其東腹は急傾斜を以て下り、高原狀をなす處が花見原である。黒檜山の南は駒ヶ嶽・籠山と連り、其南の最も低い所が水沼口の登道鳥居峠で、其南に虚空藏山（俗稱小地藏山）長七郎山と連り長七郎山の南側、即ち南面の東端に茶之木畑山があり、其西に梨木鑛泉方面から登る茶之木畑峠があつて、其處から西に躑躅ヶ嶺（ミズノケ）が堤防狀に連り、其略中央部から岐出した尾根が瀧澤から登る躑躅ヶ嶺通りで躑躅ヶ嶺の西の窪所が銚子伽藍で、其下方が粕川谷である。銚子伽藍の西に牛石嶺が峙立し其西に湯之澤口の牛石峠と、三夜澤口の輕井澤峠があつて、其西に荒山の尖峯が聳え、其東北に前淺間山・西南に鍋割山が突出し、前淺間の北・牛石嶺の背後に見えるものが、中央火口丘神庫山である。此驛附近からは赤城山中の東北隅に聳える黒檜山から、西南に突出する鍋割山に至る東南部の半面が一眸の下に指呼される。

新大間々驛を發し新川を過ぎると、虚空藏山が長七郎山に被はれ、武井（ウケイ）を過ぎると黒檜山と駒ヶ嶽とが一峰のやうになり、長七郎山と神庫山との間に小圓錐峰が現はる、これは小沼寄生火山の火口壁をなす朝香山で、鷹（トビ）に近くと黒檜山は大分其偉容を失したが、其東腹花見

が原から急下した裾が明かとなり、長七郎山の右に虚空藏山が尖頭を現はす、粕川驛に近くと荒山の中腹に在る大穴の窪地が明かとなり、長七郎山の東南に茶之木畑山が、長七郎山と離れて明かとなる。新屋附近から黒檜山が全く隠れ、前淺間山が段々荒山の背に入り、樋越を過ぎると全く見えなくなる。大胡驛附近に至ると、鍋割山の背後から姥子峠から岐出する尾根が現はれ、朝香山が牛石嶺に被はれ、長七郎山と神庫山の間に駒ヶ嶽が現はれるが間もなく見えなくなり、江木を経て赤坂に近くと、神庫山が段々荒山の背後に入り終に全く隠れ上泉驛を過ぎると、鍋割山の左から遙か北方に一尖峰が現はる。これは鉾柄山の西にある鈴ヶ嶽で、片貝を経て、三俣に至る間で荒山と長七郎山の間遙かに、黒檜山の尖峰が現はれ、三俣を過ぎると、赤城山は見悪くなり、榛名山が明かに指呼されるが間もなく市街地の屋根に被はれ、一毛町を経て中央前橋驛に着く。

○中央前橋驛から新大間々驛へ、中央前橋驛は兩毛線前橋驛の北微東約五町を隔て、八間道路の東側・比利根川の左岸に位し、前橋市一毛町に在つて、上毛電鐵の基點であると共に、東武線電車桐生線接續の終點となつてゐる。此驛を發し一毛町停留所に近づくと、左窓の前面に赤城山が望まれ、西と南に長い裾野を曳いてゐる山中西南部に突出して直に前橋市の背後を壓するものは鍋割山で、其北部に聳ゆる尖峯が荒山である。荒山と鍋割山の左に在る窪地は、前橋口登山路にあたる白川谷で、其左の尾根の頂が姥子峠で澁川・敷島方面の登道である。姥子峠の北には西部外輪山が堤防狀に連り、姥子山・鉾柄峠・鉾柄山と數へられ、最北の鉾柄山の西腹に峠立する巖山が、鈴ヶ嶽である。荒山の東に續く連嶺は南部外輪山の一